

# 地元代表協議会委員から寄せられた「地元代表協議会で協議したい事項」

前回（第2回）協議会配布資料

資料1

項目	地元代表協議会で協議したい事項	地元説明会（開催日平成23年2月25・26日）	P T A・保護者会主催学習会（平成21年度～）	
1 必要性	(1) 趣旨・全般	①まずは適正配置が必要かどうかを話し合い、適正配置が確認された後に、学区の設定、統合校の位置など十分に話し合えばよい。 ②学校適正配置は整理統合という一般社会の統合と同等の扱いとするのは子ども達の教育の観点から考えると違うと思う。大きな視点で協議すべきである。 ③子どもの健全育成の観点から、地域ごとの適正な学校配置を行うべきである。 ④小学校・中学校とも、自分達の子供のいる間はこのままで静かにしてほしいという考えが多い。 ⑤29年度までは今の状態が続くようなので、色々な混乱を考えると、このままで進んで、小規模校のデメリットの改善を考えていくべきである。 ⑥現状の中でより良い環境にすることを考えるべき。統合ありきではなく、白紙状態から話し合っていきたい。 ⑦少子化が深刻であり小規模校のデメリットも理解できるが、メリットも大きい。本当に適正配置が必要かどうかを話し合い、共通理解すべきである。 ⑧花島小学校の統合に関わった当時の先生、P T A役員、保護者、自治会役員等の生の声を聞きたい。	○第一次適正配置の取組みの中で統合された花島小学校の先生方に統合のメリット・デメリットについて生の声が聞きたい。 ○少子高齢化の時代なので基本的には統合に賛成だが、いろいろな特殊性を持っていること等、客観的・合理的考えてもらいたい。 ○学校の統廃合は必要だろう。	○子どもの数が減っていることを考えると、学校の適正配置は必要かなと考える。 ○「統合小は〇〇だ」等、いろいろな「噂」が広がっている。 ○子どもの教育環境を整えるためと言っているが、「財政上の理由や効率化」からこの事業が出てきているのではないか。 ○教育委員会の説明だけでなく、統合しての効果や良かった点等「生」の声を聞きたい。
	(2) 統合の基準	⑨全国的に統合は進んでいるが、地域の状況を十分に把握したうえで、基準を明確にする必要がある。国や県の基準だけで論議すべきでない。	○小規模校はこのまま残る余地はあるのか。	○統合を考える際、何が基準になるのか。 ○耐震工事と統合対象との関連はどうなのか。 ○規模だけでなく、学校の位置・場所も考慮していくのか。 ○通える範囲であれば統合もいたしかたないかと思う。
	(3) 教員配置 学級の規模等	⑩統合する1・2年前から交流する機会を度々もつようにする。早い段階から連絡を取り合い、自然に進むようにしてほしい。		○少人数ならではの良いこともある。 ○中学校は部活動、小学校は運動会の際に子どもの少なさを実感する。なんとかしてあげられないかと思う。 ○小規模校は、子どもも親もつらいこともある。 ○旧花見川四小と五小の統合の際、もともと「交流」は行われていたにもかかわらず混乱があった。小学校高学年は多感な時期であり、教員配置を含めて十分に配慮してほしい。
	(4) 施設リニューアル			○花島小の素晴らしい校舎・施設は統合の恩恵なのかと思うが、統合になると、花島小のような新しいきれいな校舎になるのか。
	(5) 特別支援学級			○環境の変化が気がかりである。十分に考慮してほしい。
	(6) 安全の確保	⑪通学路の状況（危険な道路等）、子どもたちの徒歩での時間（個人差）等についてどのように考えているか。スクールバス等、十分協議すべきである。 ⑫学校の安全は交通事故だけでなく、通学距離が延びることで変質者等の犯罪被害のリスクが高まることも考慮してほしい。	○国の通学距離の基準として法律で小学校4km、中学校6kmとなっていることだが、市として変えることはできるのか。 ○横戸の一番遠い地区から中学校まで歩いてもらって、交通状況等を確かめてほしい。	○柏井小の通学負担は十分考えるべきである。 ○小学校は4キロ、中学校は6キロという規定を杓子定規にあてはめた議論にならないようにしてほしい。
2 方向性	(1) 学区の設定	⑬学区変更や選択制ができるか考えたい。	○自由に学校を選べるようにするのか、学区を変えるのか。	○学区の見直し、変更もあり得るのか。
	(2) 統合校の位置	⑭新しい学校をつくり、通学時間に偏りのないようにしたり、地震対応を高めたりできるか。	○統合のシミュレーションが示されていないが、教育委員会としての案はあるのか。 ○教育委員会の原案を示してほしい。	
	(3) 統合の手順	⑮他市では、小中一貫校を実施しているところもあると聞いている。一貫校という道もあるのでは。		○小学校を先に進めてほしい。 ○中学校の統合は地域とのかかわりを考えていくべき。 ○中学校の場合、生徒指導の問題が重要である。
3 地域との関連	(1) 地域とのかかわり	⑯学校は、地域密着で防災施設としての役割を果たしてきた。今回の震災でわかるように、学校施設は、市及び区等、地域全体の中で適正化された場所として適用されている事を大事にすべきである。 ⑰地域のよって住環境も異なり、それによって統合による影響の度合いも異なるので、各地区の事情も十分考慮すべきである。	○地区連や青少年育成委員会などの問題も絡んでくる。 ○一中区と二中区では全く違う。それを念頭に進めてほしい。 ○（学校は）住民の避難所にもなるわけだから、そういうことも含めて考えてもらいたい。	○地域全体の問題である。 ○「地域の活性化」という面からも考えてほしい。 ○防災施設や地域の中心施設としての役割など、学校が担うべきことは多様である。こうした視点も大事にしてほしい。 ○未就学の保護者にとっても大きな問題である。
	(2) 組織等の再編			○統合になる場合、各校ともP T Aもそれぞれである。花島小の時は大変だったと聞いている。それについてはどうなるのか。
	(3) 跡施設		○実施方針には跡地を売るということも入っているが、高齢化の中で施設づくりを考えてもらいたい。 ○旧花見川五小は地域の要望に配慮しながら、施設を開放する計画であったはずだ。耐震工事ができないとの理由で、跡地利用の要望を反故にされるのでは信用できない。	
	(4) 子どもルーム			○統合になった場合、子どもルームはどうなっていくのか。 ○統合になっても、子どもルームに関して配慮してほしい。
4 協議の進め方	(1) 進め方	⑱子供達の安全確保の不透明さや学校が無くなった場合のリスク面（新しい住人の転入激減、既存の人の転出増加など）を考えると、柏井、横戸地区の衰退を防ぐため、今回の適正配置の候補から柏井小を外してほしい。 ⑲協議会の内容が多岐に渡ると思われる。やがては、分科会方式にした方が進みやすいのではないかと。過去の例を知りたい。	○すぐ隣にある天戸中をなぜ枠組みに入れられないのか。市民感情としては解せないところがある。まず、配置を考えてほしい。 ○協議会に参加できない方、代表でない人はどのように意見を伝えればいいのか。 ○普段声を出せない人の声を聞く場もたくさん設けてほしい。 ○旧花見川五小の跡施設のことをきちっとやってから、統合の話をしていくべきではないか。 ○合意形成の方法は多数決なのか。 ○先行した真砂地区の学区や実際の学校の配置等の資料を参考にするとわかりやすいので、今後の説明等を行う場合には提示してほしい。	○何年ぐらいを目途としているのか。 ○地域の方の考えも取り入れながら話しあっていくのか。 ○協議会に参加できない方の意見はどのように取り上げていくのか。 ○P T Aの代表の委員を増やしてほしい。 ○すぐ隣にある天戸中をなぜ枠組みに入れられないのか。 ○反対が多くあれば、この統合の話はなくなるのか。 ○「合意形成」とはどういうふうにしていくのか。
	(2) スケジュール	⑳各校には、それぞれが持つ歴史上の特殊性がある。同窓会の費用、顕彰会の原資や制度等も知りたい。	○具体的なスケジュールは考えているのか、いつ頃までに決まっているのなら教えてほしい。	○中学校では「どうせ自分の子どもが通っているうちは話は進まない」と思っている人も多い。 ○具体的な段取りやおおまかな日程を示してほしい。